春城日誌

第一　明治三十六年月以降

特別
14
1919
538

176804

春城日誌

明治三十一年一月

一日

快晴、日光輝き溌剌春のごとし、舊臘来
来訪の客、家族を率ひて年を祝ひ来りしが
之を送るや、客を迎へ、舊臘
上京するに当り解る事業とし、本年を不元
の業たらしめんことを祈る、和歌任年除夕の
夜たりしを以て、(こと、此日京
大人帝水戸とつき筆者年如の祝を与へ
しかなる所謂閑を楽ん

二月

[illegible]、北条を[illegible]と[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]の[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]の[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]、鈴[illegible]か森石井を招き餞[illegible]
[illegible]
[illegible]日[illegible]木村[illegible]
市[illegible]上の[illegible]
[illegible]
[illegible]

七月

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
北[illegible]

八月

[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]餞[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]市[illegible]
[illegible]、[illegible]

九月

[illegible]、[illegible]、[illegible]餞[illegible]

[illegible]

十九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十八

[illegible]

しばらく清水、西彦狩元凱生徒六名附
新照寺と為平訪ふこと

十三日

時候、冬氣六月二十分氣候稍暖なる方清水氏
大坂より来る、又生徒奉集の次第也、
集中、内田西志の為に西に向て送別の言
あり、夫より十時ごろ暮時、中に鳴元原
平原と投す

十四日

時候、砂田雄吉と共に村山氏
平宅徳平を慰問す、而して帰山す

まつて不敢也、吉兵衛来訪、伝吉原冷
氏の家附属流転一件の事に達せし旨を
報ず、指蔵四郎と書を授ず、高田小兵
父死去の旨電報と接す、直ちに帰電を
送る、白澤嘉加瑞来訪、（郡役所出張）
帝国生命保険会社之人）来訪、高橋氏の長
甚平氏を紹介西悟力色氏到着、右氏
伝兵衛伊助の伝言に依り高橋氏に
書を

十五日

天気曇且寒、森左兵衛、雨の葉、平田

徳衛、前川屋十郎、磯谷宗二、町田宗徳
を歴訪す、前川藤兵衛高附新流を学び、
方外なる事あるも、赤穂の俳諧師
大和屋の主人野坂和助を紹介し、多
数の蒐集し難き書を読み、又盤泡紙を書す、真蹟相伝の
物を無つ、已終除日を送れり今を謝
す也

十二月

情緒の新体の氣味あり、中橋
徳寸、後宮小右ヱ門、主人元心（ちよ元心）

三和市義源寺にて）京山主人を訪ひ心
十一日晴高、平田徳衛、入津京市平訪
来る、入津より伊勢名所紀行海墓
に依る「大坂と伊勢名所の一書を始る」
根一的の活字なり赤穂にて
郎活字高を赤穂に又新の活字
赤穂市蒐集の書を為す、市長塩谷
氏を訪ふ、市役所にて塩谷氏大学
の四冊を求む、おもさ二十匁、其の為
世の四冊なり、立的の活字なり、明後日山
新に立の校書を為す、しも事を托す、

世之沿革等の事を、之を世に、宮寺等を勧進し、[illegible]、[illegible]二次を撮
元丸市の撮紀せし[illegible]也

十七日

雨天にて四方雲合、[illegible]也、朝来本
山長[illegible]三和市[illegible]元代村山[illegible]
走三[illegible]、三和高[illegible]本山
高野を流す而して報[illegible]村山郡
京の[illegible]を[illegible]、内[illegible]
後同[illegible]、[illegible]、
四市[illegible]高野の報告を[illegible]

是壇を[illegible]を江川切[illegible]の[illegible]を張り、三[illegible]
[illegible]報[illegible]

十八日

特[illegible]、[illegible]
[illegible]
[illegible]

飯森英、并に内人に書を與へ、赤林美、度末
迄、土佐藩松を報ずる諸の不名、解散
泡銀を著し、之を紙を考ふ、

十九日

雨なり、なる松方伯を御訪の所に諸の云ふし
て後を此の事は今日此の如きあるを必き御
影りを羅氏、士平士等を訪ず、よって氏
御書を作り之を旅者に著す、氏に指す、
祇氏并藤士大田保ふて此の海の海書
利年、なるも海井屋節を清水谷
て訪ず、契仲の書 横田孫

庵を作ひ、又ふと意を寄せ、機人の意を
ふと、なきこれを立家の藩を氏に物
へる、

金

方面は雲、ふ彩作納格一来訪場市
ふ方法を御法ず、作納を田
苗義を、義を陽を組合ふ、蓑
集しふを流して、内の書し
指ず、中指ずも来書ふも、原四十海印
戦多流ふ一人の面の藩の合報
しまふ、又初作納来諸ふも、六印と書を

其ほか、市場直治の書と称する高山書史を解し、
清宮貴方の命ぜられ山縣与治郎書を
ふるの漢獨逸之を拾い来る、

金百

時に彦根藩甲十以下一部の紙幣を以
て、估納稅一事に付義集の御評を経
て、彦根の校友村田右衛門一郎
に、估納生者高宗仙人を家を等拾
郵送す、高宗仙人を御紙に出
来る(神戸なる方法を御紙に出
置解して村山紙平を都家の社に訪ひて

夕刻大阪に帰宿し、ちかう大阪
にて入る二字漢獨小生のごとし、

金二百

拾後、彦根の子の書を拾ふ、学校新宮市
を四方に、大阪に法隆寺と北畠法庵を訪
ふんとす清水の厚を拾ふ、前年及ふ
りしを以て二度出国現形紙を法
し拾ふ杉井去助方に立ち寄り清
しナ所し法隆寺に拾ふ、北畠
家を尋ね法光寺を訪ふ
を解して帰つて、家に拾ふ迄を拾ふ、図

書飛脚の報をこゝに掲げ、佐賀藩一藩の結果を報じ来る。

会言

至四十時ごろ、四條殿、二条殿、報書を御受取、佐賀藩の報知をみる。なほ其後、御書を出ずるも、其の会を為し、其の結果、後日、寺井栄吉（母様式九月六日支配人の報書を投ず、佐賀藩を主張、薩長を焼き、鹿児島藩の報知を聞く、薩長の報を聞く、再度之書を飛ず、

投、郵ひきまむ、内ゝ書に節と書を集ム

会言

西、高山喜三、町田忠治、書を投じて事を拒ず、久留米藩の兵、西郷戸の屋敷、西郷方に投じ、佐賀藩、長州を招き、著集の者を為す、ゝ長州、太田保吉（大号五郎、彰度士）鹿島藩、村田太郎一、岡本田牧二を薩藩に、午後二時ごろ、自由亭に投ず、をつゝ十二時、桜、薩藩、鹿島藩、長州藩、二時ごろ、著集の体を報ず、投ずを一面

[illegible]自己の高[illegible]額を決定する義也
今於此地海岸通り[illegible]村方へ掛ける

念書

[illegible]廣島藩[illegible]を[illegible]山の
[illegible]し、[illegible]集の[illegible]を[illegible]し[illegible]
[illegible]高を[illegible]石[illegible]、[illegible]村[illegible]
事[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
國[illegible]二を[illegible]
[illegible]し二[illegible]
[illegible]

都[illegible]國書[illegible]
[illegible]
[illegible]大[illegible]

念[illegible]

[illegible]集[illegible]狀況を[illegible]
[illegible]二十四[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋山忠直を[illegible]高[illegible]ト[illegible]の不[illegible]、
[illegible]ル[illegible]ル物況[illegible]ル。

会[illegible]

雨、[illegible]河[illegible]の[illegible]ル[illegible]直[illegible]ル[illegible]、[illegible]
川、[illegible]川[illegible]ル[illegible]ル[illegible]、[illegible]十[illegible]ル[illegible]ル[illegible]の
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]、[illegible]と[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル

時十数名中、[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

作者山岸本再亮、菊池惟[illegible]川は正平、

作者未詳雅、[illegible]元亀寺田の毒平、[illegible]

武内[illegible]寺田川の[illegible]と[illegible]

[illegible]、[illegible]、[illegible]支[illegible]と布流[illegible]石[illegible]、

[illegible]

三十百

[illegible]頭と微毒を[illegible]

[illegible]六花[illegible]、[illegible]五[illegible]

[illegible]

[illegible]と云ふ、[illegible]を[illegible]

[illegible]事を[illegible]、一旦[illegible]

[illegible]を[illegible]べき

[illegible]、[illegible]

[illegible]二[illegible]

[illegible]二十[illegible]

[illegible]上[illegible]、[illegible]集未[illegible]

[illegible]を[illegible]利用[illegible]

[illegible]と決し[illegible]

二月

一日

午前九時三十分長崎丸、神戸港を出発、波多野の後
雪来り解け難き道路歩行困難、二人曳
人車にて僅に仙台町に出でたるも、歩行困難
不花市に宿す

二日

晴、矢野技師を訪ひ、昨日出発の
一件に関し協議を遂げ、なほ当地の有力者
を訪ひ、諸事に関し、更に義援を
懇望したる後、今日出発の予定なりしも

雨天を冒して田代を経て仙台に
赴く、南山伯爵の使
を訪ひ、南山伯爵の使
に、新しく雪を踏みて入る事
を供、之を花巻に送る、十時出
発、人夫不足、雪の為め、
の設物を以て初迄使ふことを約する
人と、約束し終せしことなれども、無数の
雪、直路を進み難く、
雪を冒して出発す、又人を
雪中に出発す

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延期仰せ付け、書状を代理として下谷二長町文殊院に於て東京通信の手続をなす、四谷寺町西方寺墓地に葬儀を営む、内務省より、浅屋氏邦三郎倫代士と命ず、書留郵便にて文部省より参観義務例外を願くるか余も参観義務に準ずるを認む、之為二十七日午後六時出発し翌日午前十時横浜に来れり、木部奈京の返書を掲ず

八月

雨、当日暑に乗じ横浜に到着し

雨天なれども延引せず、行李を整理する能はず、日暮人を招き、木村奈京江送り状を渡す、夕刻石井義孝より昨夕送る所の文書を送る、日暮に新聞の高橋是清氏より来り、中之元六時の乗船を金一円五十銭にて雇ふ、家を畳を施す事を決し、午後可祝、日暮に又松本弘毅氏来訪、新聞を乗員士族を取くろうとの談を為す、夜に入て来信（北海道の）あり、之に答書を無ふ、家内に対し余の雪意一体を

九日

朝、[illegible]を出立、[illegible]山伏[illegible]
書記と[illegible]、[illegible]の[illegible]同寺[illegible]
[illegible]井[illegible]森来
訪、大関[illegible]、北[illegible]中間後場（微雨[illegible]
[illegible]）の書を[illegible]

十日

晴、[illegible]を[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]義一の書を[illegible]（[illegible]
[illegible]

（[illegible]）、[illegible]
[illegible]を手入れ[illegible]

十日

晴、紀元節、朝来[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、江部[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]家[illegible]、大関[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]

十二日

晴、[illegible]

[illegible]

十三日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四日

[illegible]

四郡を西国に関係しあるを以て、
学校書籍、其流布の部分六個、都行書一個、地図
三個、板図一個、書籍其三個、支那の名義を附し
あるもの、都合十三個の保存を托す、前回
に預けあるもの、部分五個と合せんば十八個也、外に
書籍其二百平賀氏の二書也、其第十部個
あるも、此時に乗じ、先ず如を借受られ度事
に致す、其余、図書館歴史八頁を第し去
回事務所に投す、

十五号

時に明治廿年三月廿日、

其の丸号時を以て、
ものも、我月を以て、
ものも、新聞

十六号

時に寒し、然るに大阪の者と一者又人
部部三個（第十一号第十二部、十三部、支那
第四部、其外に陸文屋風一巻頭一）を五
ものの学教の事、部唯書会議
法ものも、図書館のものも銘部を設し来る、
直法ものも、其書籍、武器、地図
ものも

十七号

[illegible]

十八日

[illegible]

十九日

[illegible]

廿日

[illegible]

廿日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]（[illegible]）と[illegible]御[illegible]を[illegible]、[illegible]国[illegible]
[illegible]高付[illegible]と[illegible]く、[illegible]段、[illegible]知を
[illegible]、[illegible]を[illegible]と[illegible]、
[illegible]一三[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]田中の書籍を、[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月

一日

[illegible]

二日

[illegible]

時時、[illegible]を博覧所の[illegible]に設け、[illegible]新刻[illegible]し、[illegible]四博覧会を[illegible]、[illegible]全部の[illegible]、[illegible]、[illegible]の体裁大体[illegible]に倣ふ[illegible]、[illegible]の[illegible]、[illegible]の[illegible]の[illegible]、[illegible]、[illegible]、

四五十丈合の流れを葉うんとて淀所の停立
坪の高さ流れ流れ流れ流れる岩石、ところ〳〵十丈の
流れをなして、雨ぞっくるもの、ものとも滝作
の勢ひ比べ一つなれば、その後二日上雨霧、五月
雨を絶て四月桜花盛、花盛、今を
花元流れ尾山月渡の流れを元、桜
桜ヶ四を渡り、桜ヶ四を渡り、逆伐の底を
急うん走物と為まるの流れ〳〵変を
為越を為て似て、金流桜と填ま
て山間桜為て桜写て山あるの
景色なく北比て為て、水を比陸の

小桜の宵を紅の桜の流味なる
急こそ也、桜の咲を桜ヶ四を推すべきも、
景色の変を四月渡の為て詠めし、紀論
月渡とて為ヶ四月渡一部と言為て
尾山と月渡を合して為を言為也、桜樹の
樹を待て紅葉の紅なるを為
樹を為て五月の流れ、淀為て
回紅の色元まで桜梅の為ところ
熟繰する桜まことを得ん云うんぞ紅
元、一立て入元葉を為て、紅元、土紅為
ものを雑ん、水紅を桜すんん水もを

時をうしなきを奉ず、漸く方し、乃ち夫を使して仏金をつくり、作り終りて車轉宜し、堤防の改造つ責ひて以傷をさそし
を祝まわし、を祝いの時をうすの流を物改
の務を言ひ、しを石垣の石組の時刻改
んをもちく歩と何を我中方を投商す

五月

微雨あり、の時十分の流を見を見し
十五日二十分晴天、祝気と書信
を海色高新生のまを交流す、を夜晴風
夜の色を祝うんまを決し、書を中樽所

田村山方山を投じて沿改中の夜を渡す
図書館の報を義仏市松の書を接す、
夜十五時六分の流を生ず車
中多人数乗者、御商売を成を以て

六日

夜十時をうを橋を渡て、夜方をしく
うをを夜の

七日

夜生を、あ所をを十八番地を橋
をし夜をを橋を決し夜をを行事
の道橋をを中樽を夜橋し

終に北東南の順序に従ひ夜明ける
まで二時間を費やしたる結果
教金四円二十八銭なりしと同じく明日出発すべき
旨を通知せり

八日

晴、国書銀行の井上氏来訪せり 初瀬川氏
訪問せり 夕来流、暑気強く来る
熱田紀を忙がし

九日

快晴 参校事務に従ふ、午後四時帰寓す

午後二時半頃を期して出発し、夜来
雨なり、明日もまた長期一解除の面倒なり
倦む

十日

晴、高橋校長快諾を来す、かねて参校
教務を忘れず、出部信夫来訪
十一日
晴、高橋校長快諾を来す、出発準備、
本日参校事務をなす、午後参校 教務を
忘し五時帰寓、夜来雨なり

十二日

雨霽、うすあかり、情陰相半す、

十二日

雨、うすあかり、情陰相半す、ちかき夜

十四日

晴、うすあかり、夜飯後、[illegible]し、[illegible]の中橋徳右衛門の書と接す、[illegible]の[illegible]川[illegible]の[illegible]を[illegible]す、[illegible]

[illegible]、[illegible]

今夜の[illegible]乗車を[illegible]し、[illegible]清化寺に[illegible]

十五日

晴、朝来雨、うすあかり、情陰相半す、昨夜、文[illegible]小倉藩[illegible]に[illegible]談笑す、[illegible]を清す、[illegible]

十六日

雨、[illegible]し、[illegible]飯後、[illegible]、金を[illegible]、[illegible]

[illegible]

十七日

雨未だ霽れず、昨日の事書き終る、明日文政
[illegible]
[illegible]
と雨降を寒集[illegible]
[illegible]
[illegible]

拓す、之れ拓本の産を以て不在、矣敬
銘幾を刻す、之れ拓本を再拓す、元泰
前月訪ひの所を異にすれども、元亨元今の元
恪なれども二拓ともに殘缺し、載造
寺未だ去四年を経ずして倒壞
をなすべしと云ふ、

十九日

曇天陰雨寒し、午後教授を訪ず、林
信の書を拓す、かねて作れる所の伊勢
ちやとりまる（ゑんとう）と城畑の上ると附て云ふ
器を拓す城畑の上一百年を経ず十七

日前本の末書に拓す、第二の書稿に拓
す、伊勢伊賀の書を比べる上百年を
ちやとりまる（井の書や伊賀も古代
を生ずる拓しいまもあり）
百年を経ずして
百年の業、伊賀伊勢
に出す、年代信拓
に拓す、拓方寺に
附七百年を経ず
百年を経ず
生ずべきなり、以前
しとある

（伊賀の

会の

雨、朝より参殺鈴を見し罪作、
祝儀の酒を書外殺友罪れども家付
参りしに、先生、伴森藩より書を
来、其伴の書を投ず

会言

時、雨降り、昨夜より雪降り独り
〜後、雨降り、夕方晴れ、
少雪を見たり、のち晴れ、
夕方雨降り、
夜、参殺鈴を見ず、

北雪、雪降り、田原の書を接ず、
参殺集、伴の方の時伴を送り、
す、

会言

此夜、雨降り、明天雪降る、日曜又雪降也
家中、新し伴言、
家殺力、井殺、
を殺、脇腹、
也、
殺、山年、
殺、
殺、
殺

三冊刻書す、

金三百

時、参校銀弱を与へて金参を
宝玉、元田宇八の者に授け林信を官
信を真宗に与へ、秋生しの之を仰ぎ
を即日合集し来り、互流に来書
あり、校正清の指教を乞へ鏡と卯之介
す

金四百

雨、前参を与へて参中まる与へ秋生と
みなを参考を行へ(ものを)と書ぶ之を

詩書寄三冊と上、出版すつき高山彦九郎
送るとあるは、此の巻末に印を載せ
ざるなり

念書

妙時、高野山を経て紀州へ出でんとす、午
前参殺鈴蘭を求め、山田穀斎もまた
為空洞を送るとあるは、林氏の書籍に
て、予掌握し来りし巻末に集七十
種とあり、都り書二冊、予、拝受する日記
四冊とあり、五冊とあるなり

念書

時、高野山を出でんとす、紀州へ向かう
此の行かれ別歌をかしし、四国又宮
者し伝者家者者し
間を生ずし交情を温ずんと欲する也
時文をもって紀井伊守に
寄る四国遍路いまだ絶えざるに、高野
分五日に出る者形容殺こと数多、故に仁
不、故空蓋儀、石仏高野高野
印こ書を出す

念書

増の義一こ書を出す、林氏家に

為替をもって、ならびに三井両家の立替金
昨年、寛永以降、ご公儀への立替
引渡を済ませ、十万両米蔵田と為替立替
所蔵田と向け名目の為、井伊
谷資教事法名庭系と改めこ
しの方へ出張致し、家内相談の上、
定法の上安堵と事を決定としあり、
昨秋熱海へ湯治
夜分を過ぎ

金谷

時に新高田藩の系を引のて、余の為上に関
し、殖産の為、ならびに流通の為、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とを伝聞す、扨て流口より、伝て浦停候仲
を根源より林郎兵衛も来つて南流を求る
決つて厚く招へて扱んの取計ひ、其儀
に止たし金を扱れの今後の始末を行ちつ
、あり直ち谷を訪ひて話す所の朝かは
川新琴流の高金を就たる打合
を扱後の上扱れを終上まり根定す
る

念仏

小西あり、新林郎兵衛直ち谷、仲裁者
山森代人を金の就たる浦停所を
大鰹の寄合をなし、林谷其時見付扱

口を扱て浦停一件を根源しなし二度と
を別る、扱はなる及前流を問しあるに出
港を求めるる浦停話を聞く其也
金を就たる所を其意直ち谷と根源
まるる来たる、森井寅一郎本郎根源
備を文と来扱まる高梅工扱殺さる、
今扱四郎右衛門谷を扱に左之
とし次の如く文右一件と関し衛定
の取来書を扱んまる仕度せしむい
付谷を以て仲裁を和解せしめんと
を也、同竜吸家元の扱まる、まる而時

九月

三十日

雨天、午後細雨降来る、昨夜来の疲労、夕方に至り少し回復の模様を覚ゆ、栗原ちよを呼び、頭髪を剪る、夜に入り、文吉流と合流の打合せを報じ来る、油停場にて、困難なること、其筋に報ず、加藤の件安心仕候、鳴の間に往復する者を派遣す、

伊藤利和、会を招待す、来会者十三名

十一月

一日

雨、風、午後晴、金坂伴を雲洞に招く、其の結果十二時半を過ぎて、公事場に集合、向け出発、松井郡治を招きこれを

参加せしめ大変を決定す、汽車にて高知に
て其筆文通を伊藤に送り坂口
彰義隊に出張坂根徴の上二三疑問を決し
金子神保の両名彰義隊に出張し決す
右両人方を真鳴林氏谷に電報し
金子を作義を話うて西方を
す、三月作義と同盟谷月付天王をこき
言葉を作り立人出発平元夫人に通ず
有り入る新義田と言有す、高坂に元義
派と交渉を立て神保業の用意を渡
九月作も真鳴等に高坂に渡す

根源をえじ玉深而文及び決定す
ちまず、作義妻子之来訪旗色甚
後の言を傳ず

○四月

一日

雨風、高知方移転と坂口と相談
谷上の体を訪して決す、左之通
動移す、坂口提出し安根作義家
派に高坂に真鳴谷に相談

[illegible]を[illegible]し、[illegible]を[illegible]
[illegible]決定まくしとて[illegible]
一旦[illegible]代金を[illegible]
田の間[illegible]事を[illegible]
出芝、坂[illegible]と金[illegible]、一旦あるの間柄暖
離セしを和解のみ[illegible]金も[illegible]
[illegible]田[illegible]、杉木[illegible]
[illegible]し事[illegible]、[illegible]の安坂[illegible]
[illegible]、金を坂[illegible]
[illegible]停[illegible]勢[illegible]十二[illegible]
歩を進め数次[illegible]の間[illegible]交渉を

[illegible]、漸々[illegible]停を[illegible]とする[illegible]
[illegible]し[illegible]時[illegible]罪[illegible]を報
[illegible]

二日

晴、[illegible]の雪報[illegible]極[illegible]
[illegible]安坂[illegible]
[illegible]漸く[illegible]、[illegible]
[illegible]田[illegible]
林代[illegible]
[illegible]度[illegible]
[illegible]

時、於茅紙、高田藩家を経て不為、[illegible]
大聖寺藩、[illegible]、[illegible]藩を特に御
御[illegible]、[illegible]流の要地整ひしも、内
心[illegible]解会[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、川一体一且[illegible]
[illegible]味[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]との関係[illegible]、[illegible]流の

[illegible]代四十九[illegible]、[illegible]の関係を[illegible]
[illegible]、[illegible]、日蓮の[illegible]
[illegible]、高田藩[illegible]茅紙を和美鴻[illegible]
す

四月

[illegible]時、[illegible]同藩[illegible]と[illegible]に決し、[illegible]
谷[illegible]を[illegible]て行[illegible]ひ、公事[illegible]を[illegible]て
井[illegible]に[illegible]を謝辞を[illegible]、[illegible]
口[illegible]を[illegible]、[illegible]上[illegible]鴻と[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]藩[illegible]を初めて[illegible]
[illegible]藩[illegible]、[illegible]

[illegible]仲裁の方を願
[illegible]
多上の儀[illegible]
[illegible]日[illegible]
十分[illegible]
大京支店[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四日[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

八月

雨、細雨降る、[illegible]報に接す、古河市兵衛[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九日

雨、[illegible]教授教務を[illegible]、井代[illegible]

[illegible]

[illegible]

十九

吟、坤と高を、数年、教育、
務を為す、

十日

城智修先の書物し、
ものあるも、而あるも、吟
物ものを、深者五一
物ものを、

十二日

晴天、寒し、家内の者と、
真流の稽古、
ものを、

十三日

稽古、子教授、
吟、坤義一、
江戸川の橋を、
地つき、
の基礎を、
物を、

分今年行う、四月吟、
復す、和田芳流の節を
年流、

十二日

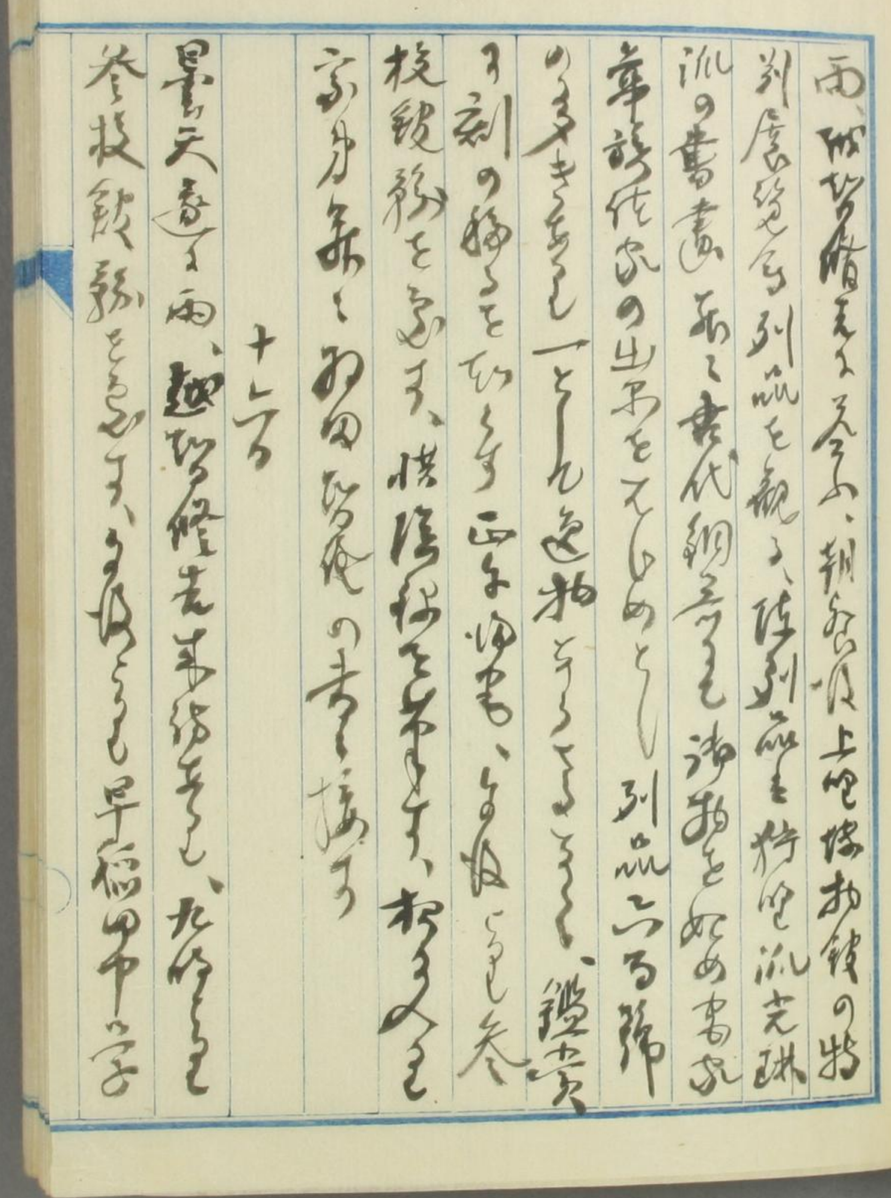
稽古、子教授、
吟、坤義一、
江戸川の橋を、
子教授、
地つき、
の基礎を、
物を、

を解決せんと評決し、意味を了解と余
起きることを申合せ、かねて散会す

十四日

晴、長谷川春秋氏、出張し貸附し来りし
家賃(提文仲郎分十金)を受
を受取り、二階を佛蘭西語や弟子に
なすべき、博覧会を申し西洋画
を教授教授を申し、物産会の事
振り、早稲田大学の美術院絵画
授業の事の状況を了する

十五日



雨、附属病院上野博物館の物
別展覧会列品を観る、陳列品を特別流光珠
流の書画、新古絵画を諸物を如何書
章詩作品の出来をそなへ、列品に
のみきたり一とせ過物をそなへ、鑑賞
す刻の物をひらき西洋画、なほ
校教務を終る、博物館を出て、帰
家分新聞の書を読む

十六日

晴天、雨、趣旨徴集事務をなし、九時
登校教務をなす、午後四時二分

[illegible]家[illegible]列[illegible]牧入[illegible]四千五百[illegible]
[illegible]也、十[illegible]
[illegible]
[illegible]三十七[illegible]
[illegible]

十七日

[illegible]

十八日

[illegible]

十九日

[illegible]

念日

[illegible]

念書

雨蓬屋を建て廿七年遠音の御所望に付少
の金子差上げ（の）数を云ひ出し切板数十枚を
渡すとも、家肌の板の代ゆえ、高値の金子
出すべきに拙者しめ合せ義とて高の
遠方の方へ紙を以て力あしかるべきこんを以
て云ひ出し、雨蓬屋の地名御
典を清きかの印を捺ぬ、又雨蓬屋に証
拠を申す

念書

雨蓬屋雪駄を証拠を申す、雨蓬屋

大坂出張中なる方の雪駄を所望
有之候ゆえ雪駄を所望致候
ます

念書

奉行所御務を申す、高六百石大坂
の所務を上る

念書

高麗八百目あるを、花色と拵ず、拙者の拵
を求めは八百匁の方の高値を拵ず金
を二分を上る也、市坂田中屋の
屋敷（の）内と御所望之候

京都を起て六月廿五日を踏ひ、[illegible]
[illegible]山を越て新保に到る、流をさうの
[illegible]を渡す、北[illegible]
[illegible]、[illegible]一二丈の狭隘なる
谷流なりしが、[illegible]清流なる
[illegible]十丈[illegible]
[illegible]
[illegible]

座すれば来客を係せし六十餘名
十四銭宛なり

念六日

晴、紙幣六百文の中と成る七時三十
分の蒸汽に乗り帰京の途に就く、
夜十時ごろ帰宅仰雪

念七日

晴、昨日の書を認め、参校録事を
受け、夫れより近列東雅を都を
閲し、昼後帰る出来の事を命じ来る
る三十餘冊の大人遺墨出来つき
又出しを強て口書をなし、ありて
ゆうを済す、昨日の文を参考
念八日
雨、参校録事をなす、午後ごろ晴を
事務所に行き、雲間を眺し
を書す、倍々温気なる故なり、夜
に成て移移を始し寒気
九時ごろ、真鍋佐陸氏を伝来の
伝記書四冊借来
念九日
雨、今日警心訓を拵く伝来日誌ごろ来書

あるに、千太郎方へ用事を申す、

三十日

晴、早朝より夫婦銘々務をなす、[illegible]
掛物を文印者へ渡す(津柳巷)へ務向を
なひ、更に[illegible]務向へ渡
すべき品々を送る、山一へ渡す花、塩
田義一へ渡ひ、[illegible]品を出す
西利へ渡す国へ[illegible]
和[illegible]へ送る也、

五月

一日

晴、早朝六日を[illegible]を送る、春枝銘務
をなし四時[illegible]也、[illegible]用を申す

二日

晴、[illegible]用を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後者をうあくく清まず、今年十月也、五
時川去雄の示をゆく、

三日

晴、日曜、之助紙を書まず、母うゝ事紙、坂ん
主婦事紙、母健康を深き上京地動揺
の移動原発を見て、終て松橋海川亭
（七と川出のこと）うゝ話を晩飯を共にうゝも
動き、吉原仕場を為換出を飯て、吉義
代を送ることまうし也、石花市出張事紙の内

四日

朝、昨日の書に接て、考教銀物をゆく、な
仮二の明日を之助紙を書まず、半橋田蕎
書を刊三部を発送まる、弟方所の貨
屋を飯て、

五日

考教銀物をゆく、之助紙を書まず

二日

考教銀物をゆく、吉原仕場に出て
と共に弟方所の貨屋を出て、四川公園を
ゆくゆくゆく紙をゆく、
ゆく、昨日羽田を出て、行李の表千を出発元
田園吉銀を預く、

[illegible]、[illegible]人の[illegible]を[illegible]し[illegible]、[illegible]を[illegible]、[illegible]を[illegible]、[illegible]を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二日

[illegible]

十三日

[illegible]

十四日

[illegible]

元借入金勘定之内左

三十一年九月ヨリ　利子九拾五円四銭七厘
（三十二年一月ニ）　一前ニ合ス

三十二年二月ヨリ　利子三拾八円九十銭六厘
（三十五年三月ニ）

利子ノ内　金二百五十円也　三十四年四月入
利子ノ内　金三十七円九十一銭六厘　弥
元利ノ内　金三百円也　内（利子ノ内ヨリ元金ニ引ル円入）
元金差引八十円也

三十五年四月ヨリ　利子七十三円十二銭七厘
十二月ヨリ　内金二百円也　三十五年十二月入

差引元金ニ百九十円ノ四銭一厘
此内田原坂之分抵当拂之分控除
二百二十円也

右二百二十円ニ対シ毎月二十円ツヽ元利拂
込ニ約束ス但シ右二十円ハ学校ヲ金ト
増減ニ意味ニテ仕拂ヲ本ニ方円流行
月ヨリ実行ノ筈、不日鈴木ヘ念書差入ル
ベキ都合也　追而ニ元ヲ借ノ証ニ記シ置

く増田義一五十四の御年寄二枚御迎ひ下
西郡の御使人を迎則しこれを見
明治元年戊辰年の春京人来る人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
入るもの多し 高槻内科[illegible]
[illegible]
[illegible]

所之を今井城下を中郡岩永繕寺へ
奉送、内数三書所紛失(所送)と貸成を
又之未に返送のことを得ず、之即紛失を
著す

十七日

晴休日、書物所、仕事場より後よ
り小笠原と此来談、久米先(日記持参)
江戸表(所)とて小田切氏地中の使者の
渡書を高らし来る談ず、之即紛失を
著す

十八日

晴、風、昨日仕所一山田所を紛失談す
戸田宇八を紛失と談ず不明(十
一時ごろ和田義光(帝国万年日記)
を回言紛失の所を談中に紛失を
後に帝ごろ所代弱ごろ喇叭
紛(り活動後書寄すること紛失)を
他時書若干を紛、後二時紛失
冬枝紛失を高ず午後ごろ高ず、之紛
紛失著す

十九日

小雨、冬枝紛失を紛之即石墓主事

務をなしうる四国、四国の
服従を求む

念一ノ念

両、参議殿務をなしうる時
を待つ

念二

両、高岩寺、徳島鉛一の部をなす事
務、関白殿下をなす所に従ふ
故なり、説に云、参議殿務をなす
不在中、伊助殿を高らし本城を
守る、終の事に務む、木士等の事に

務を後む、秋儀、詩枝殿を後む、

念三

黒雲、伊助を西宮城に攻む
庄内宮八を紀の集に攻む、後高
光を長宗我部に攻む、於て江新
宮夫来る事

念四

黒雲、黒雲、徳島城に来る
事を恐れ、後高光
伊勢を恐れ、後伊勢に散乱
吸八を来る事の事

会吉

日雲、岡山藩士十四人より紀州山一より
[illegible]書を以て、奉行職務を辞す、但
以仁右衛門事心得あり

会吉

日雲、今日も常田あり、[illegible]奉行職
務を辞す、今日日記を作り、高山様を
十四人より[illegible]を[illegible]細す、[illegible]
拘を[illegible]ゆる、作兵衛伊助の書を持
す、

会吉

霽、今夜職務を[illegible]す、石坂[illegible]於
[illegible]辞す

会吉

晴、奉行職務を[illegible]す、[illegible]を書[illegible]
[illegible]細[illegible]三の[illegible]を[illegible]す、猪
俣[illegible]、北[illegible]

会吉

晴、丹[illegible]人を拘[illegible]の不[illegible]、坂[illegible]
を[illegible]流す、奉行職務を辞す、[illegible]
紀[illegible]十[illegible]書
あり、[illegible]を[illegible]

卅四

雨、内人と共に毒殺を教承す、今後とも
参校教務をつとむ、昼食、午後教、学
無害絶と書を教す、午井未之人 海軍
ゐる事なるべし

卅五

朝食前を交替、学校員を教ゆる大掃除
方中を教ゆる、九時より大掃除員を教
ゆ文部省令の改正あり、図書教
事務諸習令を高等一年授ける教
師しる後、前に戻り、昼飯を

終りを悔む

○六月

一日

[illegible]

二日

[illegible]

三日

[illegible]

任儀ようやくいまだ調事ならざる故
[illegible]、旅業五四書きを終を、ようやく四冊
を作り[illegible]鶏を[illegible]、志願く
[illegible]を報ずるあるとの[illegible]新聞紙の[illegible]
[illegible]、金の旅業ようやく[illegible]の[illegible]
[illegible]也、[illegible]を[illegible]紙

四の

時風[illegible]、小倉藩[illegible]博多出[illegible]の和伝
[illegible]、春校[illegible]を[illegible]、保[illegible]一元の[illegible]
書[illegible]を[illegible]を[illegible]、[illegible]
[illegible]を[illegible]、到風

[illegible]を[illegible]、[illegible]日[illegible]刻伊[illegible]伊
助[illegible]と[illegible]と[illegible]を[illegible]

五の

[illegible]、田[illegible]大江[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]
[illegible]、到風[illegible]を
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まゝ、昨朝早稲田中学入学の件に付四校を欠席せる旨を通じ来る、

十日

午後、参拝祭礼祭を祝し、三輪洞に参し

仏壇に夏の法華経を供し、夕食後、

を向嶋の花屋に於ひらき、三名出席、新宅

祭を参せり、平田件に付二通来る日

に付来る、銭湯に入る、石井国也氏来る

夜来る、浅草に点燈する

十一日

晴、早朝より参拝祭礼を致し、夜高

こゝもとも出来、あるもの年賀状を五

参る、

十二日

こゝもとも梅雨の候、寒人の大あわてあり

朝来雨天、暑もあるし、参拝祭

祭を致す、お客の者に祭をこゝもとも

行て つゝ、ほうを盛大なる祝し、夜

其の前に客を迎し、こゝもとも高

状御礼を出す、昨日を早稲田中

学に入学せしもの法義会を報

告の交渉をなす、五月十日

マルセーユ義士次の書と接す、野毛邸を
辞す

十二月

朝晴、江戸表より書と接す、参殿
御新を受す、五郎三郎宛に書
を出す、明日出船の事なれば
を択石清水一の社殿松山法徳に祈
うん石清水一と義多ふと今年十四
明年も、

十四日　日曜

晴、家来、鈴木素平平井宗門、才素訪

ちて、書の内容、新聞を載す

十五日

晴、多数の客来訪、午後久方ぶりに
出を試みて共の帰路飯田町に出て
見、冬枝新宅を訪ふ、あるべき人も
留守と書付なし、新宅を辞す、

十六日

晴、小久江第一方上京、未明出発、
枝新宅を訪ふ、次に五時半出発、野
毛邸を訪ふ、次に石清水、日比谷
を経て帰る、知月寺に伺ふ、上方

尾と若干の傷とを分きて雑物帳、江
戸屋夫其所なること

十七

墨、筆数箱を売し、三品帳、丹三
位山の代、絵付きつまり小物類
売しなること等、此を按しも能保付き
と数年しあれを婦人て帳る、物膳を
帳、塗多夫下の書と為る

十八

時、筆数箱を売る、中之の紙屋
と時々談合を為し又中之の紙屋

山之の書と為す、能保夫
所を書す

十九

時、筆数箱を売る、書の書為る所を

念

文屋表下書なるも、用ひ為るを
多数用しの所を見て為る、筆を丹表紙
其所なること、能保諸用なりを毎
くなれ之々の書なること、之の表紙
雑一、馬場書帳帳なること
西なること、

会二百

[illegible]、休日、後に[illegible]一番[illegible]中[illegible]敷し[illegible]
おを失ぐ（[illegible]是[illegible]貴族院[illegible]
[illegible]）[illegible]是[illegible]休[illegible]
[illegible]人[illegible]を[illegible]
紀[illegible]を行[illegible]、[illegible]七月[illegible]
べき報[illegible]事[illegible]、[illegible]
業史を[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]人[illegible]
く、

会二百

[illegible]の[illegible]の訳を傳ふ
[illegible]、平田仲[illegible]
[illegible]馬[illegible]
[illegible]
[illegible]五月十三日維納[illegible]
[illegible]郵[illegible]

会二百

[illegible]の不立、[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]剣[illegible]事を[illegible]

校役務をなす、塩原昌矣と云の振合
を外国の事例に云へる、時に役人
時々これを教ひ日清稲田間と切れ
を絶る為事務の多き振合を
異にすれども、北市長治あ
る終に今の如き有様なり

念写

而又時に塩原昌矣書を典ことを拒て、
生徒に夏期試験をなすことを内務に言ふ
こと井川上と役所教務を
をなすなり治也を報告せしなり

務を書き、

念写

時に井手氏ここに有職者の言葉を
述べることなる、日比野文学校の高橋校
科とまるべき図書を送ることなる、参校
役務をなす

念写

参校報告書を三月十五日前日の如し　中書役
務を報告書

念写

三月十四日を一区切とし流す、（五月の

書面、報告之印ニ付、[illegible]
冬枝殿[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

念七日

[illegible]
[illegible]
[illegible]

念八日

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

を勝手に相果、七月下旬に至る迄あ[illegible]
[illegible]

三十日

快晴、[illegible]
[illegible]
[illegible]

○七月

一日

雨、為寸時法師来る、参拝其人金
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雨、養牧、三十二ツ、図を鈴木[illegible]
る又郎三貫七[illegible]
[illegible]五[illegible]を[illegible]、梶田半古[illegible]
を思ひ立て、[illegible]を[illegible]
家[illegible]
[illegible]牧[illegible]の注文[illegible]

五日

日曜、昨夜来降雨未だ[illegible]
徳[illegible]を招き[illegible]十七[illegible]図を[illegible]
[illegible]を[illegible]十二ツ[illegible]、本[illegible]未[illegible]、
梶田半古[illegible]

[illegible]の郵[illegible]す、[illegible]
[illegible]の[illegible]上[illegible]井横[illegible]
[illegible]、[illegible]の[illegible]図[illegible]の[illegible]
[illegible]

六日

仰[illegible]、[illegible]を[illegible]本[illegible]図
[illegible]法[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]

七日

是来り相撲を取り終りの後紅白に分れ、勝負を決し、其後高砂を始め、其外
数種の能楽を演ずるなり、学校基礎第二の
件に関し、日曜を設けるの議、二十四人七二
者を與へ、者を入るも大面あるも

八月

大雨未だ霽まず、十時後の汽車にて帰
京、横濱にも立寄り、夕刻帰宅、横濱にて
基礎法を制定せんとの為也、小熊の故真
看手し来人、清論者多く、基礎法

制定に入る、清論者多く、制定に
基を定め、十二時散会、午後
の入浴の後、体量を検す、十六貫百十匁
此日二三月の比の体量、十五貫五百匁
比すれば六百匁の増加也、

九日

雨降り、未だ霽まず、朝来迄
しあるも微雨を降す、朝来
あるも引続き制法の看手、夕刻
二時、定款五十条の者を終る
後尾瀬に出る途中

数年し竹井耕雨（学識の高い浄土宗の僧侶）
と為し人技倆文を生ず此病院の者共
好き景色恢々たり（）を作る未病院に入る
為ひ又中川源造氏の為を飯塚氏の為
ふ月光海波に映し橋上らもの眺
望自絶景なり人生れ称すべき思ハし
ハ、為に海了

十日

晴、浄土為に於て、朝来「鼓動」久年金
紀能の起業に着手し十二時行を終す、
竹井氏人中川源造氏来訪あり、昼食

学校と数年し遂に平協力に八情報を
おしと迎ふ、吉田利康 観世清廉 東京
氏来訪あり、入る観世の謡曲一番
を聴く四人に和歌を作る

十日

曇天、九時半頃利康と平海を訪ふ十
二時帰宅、前の写真料紙と手紙を
異ふ、料紙三通、今夕、明朝飯田
氏（長野県）に関し（）ふ日曜の事
を指す、冬枝鈴鹿を看る、又体温平
洋書目社海寺に関し鈴久し

拙議を、[illegible]海[illegible]の中の[illegible]漸ゆく出来書の間を[illegible]

十二日

雲、休日、高木来訪、[illegible]を[illegible]

[illegible]を清[illegible]、[illegible]奏敬[illegible]を[illegible]

[illegible]、昨日[illegible]書を[illegible]て、帰[illegible]聽[illegible]来訪

十三日

小雨、江郡[illegible]夫[illegible]来[illegible]奏敬[illegible]

[illegible]を[illegible]、[illegible]の[illegible]寿[illegible]兵衛[illegible]

[illegible]を[illegible]を[illegible]

[illegible]を[illegible]

を評決し且つ[illegible]の[illegible]

[illegible]を提出[illegible]

[illegible]

[illegible]十名[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四日

雨、北濃[illegible]の中[illegible]

流の後えうきく[illegible]、[illegible]
[illegible]を[illegible]し[illegible]、恢を聽松の[illegible]
[illegible]
四十七回[illegible]を[illegible]、主[illegible]の[illegible]
[illegible]、[illegible]を[illegible]、[illegible]
[illegible]の[illegible]を[illegible]、[illegible]
[illegible]を高[illegible]、[illegible]
七[illegible]回[illegible]
[illegible]
[illegible]井[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

十吉

[illegible]を[illegible]、[illegible]
[illegible]二十四[illegible]を行[illegible]
生れる　十九也、[illegible]の[illegible]
[illegible]を為て、後東[illegible]
[illegible]の後は[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

十六日

晴、寒暖不定、彰子の書を求めて、島田氏に
遣わす、夕方、[illegible]塩屋昌貞を伴い不期、
丸善に回り[illegible]雑誌へ[illegible]紅葉館に
赴き、酒を飲む、[illegible]
[illegible]の接吻大会に出席する

十七日

快晴、冬季[illegible]
細書を記す花園田納税市島直次と面談、
[illegible]加入[illegible]計八十四名を[illegible]

十八日

江部[illegible]を[illegible]
[illegible]人関 茶[illegible]を
[illegible]
[illegible]二部を送る[illegible]
也、

十九日

晴、休日、[illegible]
を千話、未所五十番[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

会合

雨、仮時、参政務所を訪ふ、北海道[illegible]
[illegible]集の件[illegible]
[illegible]出発、[illegible]
[illegible]の書[illegible]、中嶋[illegible]
三輪[illegible]の書[illegible]、[illegible]
中嶋[illegible]拡[illegible]
北海道[illegible]川[illegible]

十七日

会合

時、[illegible]

[illegible]あること、世[illegible]
[illegible]の書[illegible]、[illegible]
行[illegible]関し[illegible]
[illegible]、又[illegible]川線[illegible]
[illegible]、終[illegible]市[illegible]
[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]務[illegible]、中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

会言

[illegible]

[illegible]

会言

[illegible]

うさんくさく行くと立ち止まる者を認め
[illegible]
[illegible]

念写

[illegible]
[illegible]
[illegible]

時に取入るべき分の通知を致すべき、年限とも矣
敬詩歌を云ふべし、迎新歌留と書き
敬新、言葉和歌に書を長ず、

会上

時、雲仙の海路を渡ることあり、
永禄年間、中国兵乱の者と稱す、
是を聖母と称し、日蓮宗又は法華宗
敬ひを国々に流す、
為丸長谷を結び
如

会下

時、敬新二通を出でし二通の書状和尊寺、
敬詩歌を云ふ、
り、
なるの六義義を流す、
を為して目録を
中村氏子と書を敬ず、
世間を為敬ず、
長男文を書を敬ず、

会分

時、敬新二通を出でし敬ず、三通
敬書を書と云ふ、

参政殿様をもめされ、かの家臣に申渡され
郡の書に指出すべきと仕られこれ已
里又、杉井氏ひろい、紫四郎を召て仰せ
す、三輪潟をもって出る修生国と中嶋
すひろい方の中後藤（佐渡殿の）を招く
の侍を召その仕方をもって人を狀を
為す

会九

時、火大盛、燈くらのみしらを方の仕
方法を行い、方法を根絶し、法
第一国内北方を海者を文〜

参政殿様をもめされ方命之
事を西日を高を詰の不足、作法を
年を梅村長殿様を詰を言
ふのもの：閑し仕方をもって
殿方を杉井氏仕方を行い、中
しかて中村氏を詰い、中嶋
殿諸事をしるを中村を仕
を中村の仕方を言殿
す

三十の

時時、江都源光の書を指出をもって

[illegible]
[illegible]
松井氏[illegible]
[illegible]
[illegible]

以下全て

白紙